

原 著

結腸癌手術クリニカルパスにおける パス離脱の危険因子の検討

金澤 周¹⁾, 塩澤 学¹⁾, 田村 周三¹⁾, 山田 貴允¹⁾,
稲垣 大輔¹⁾, 山本 直人¹⁾, 森永 聡一郎¹⁾, 佐藤 勉²⁾,
大島 貴²⁾, 湯川 寛夫³⁾, 利野 靖³⁾, 益田 宗孝³⁾,
今田 敏夫⁴⁾, 赤池 信¹⁾

¹⁾ 神奈川県立がんセンター 消化器外科,

²⁾ 横浜市立大学市民総合医療センター 消化器病センター 外科,

³⁾ 横浜市立大学 外科治療学, ⁴⁾ 横浜市立大学附属病院

要 旨: 当院で施行している結腸癌手術クリニカルパスにおける, パス離脱の危険因子を明らかとするために今回の検討を行った. 対象は結腸癌手術クリニカルパスを適用した255例で, パス離脱群と非離脱群に分け, 術前因子, 手術因子, 術後因子について比較検討した. パス離脱例は36例, 非離脱例は219例であり, 離脱率は14.1%であった. 多変量解析の結果, 「術後4日目に37.5℃以上の発熱があること」が, クリニカルパス離脱の独立した危険因子として有意差を持って選択された. 術後4日目に37.5℃以上の発熱を呈する症例は合併症の発生に十分に注意し術後管理をする必要があるとともに, 「術後4日目に37.5℃以上の発熱がないこと」を, クリニカルパスのアウトカムの中でも最も重要なクリティカルインディケータの1つに変更する必要性が示唆された.

Key words: 結腸癌クリニカルパス (Clinical Pathway for Colon Cancer), 大腸癌 (Colon Cancer), クリニカルパス離脱 (failure of clinical pathway), 危険因子 (risk factor), クリティカルインディケータ (Critical Indicator)